

白糠高生らトドマツ400本

町緑化推進委 乳呑町有林に

【白糠】町緑化推進委員
会（石田正義委員長）は24
日、2024年度町植樹祭
「森林（もり）は自然の貯
金箱」を乳呑町有林で行い、
町民や林業関係者、白糠高
校の1年生22人など合わせ
て約120人がトドマツ4
00本を植えた。

同校が植樹祭に参加する
のは初めてで、自然との付
き合い方を通し自らの将来



シャベルを手にトドマツの苗木を植える参加者

を考える学校設定科目「環境鮮麗学」の一環で参加した。

開会式で石田委員長は「植樹祭をきっかけに子供たちが木と触れ合い、森の役割に理解を深めるとともに、地域との交流を図る場」としたい。白糠を緑あふれるまちにするため、協力をお願いする」とあいさつ。

来賓を代表して棚野孝夫町長、山本茂根釧西部森林管理署長が森林の役割や恩恵、植樹の意義などを訴えた。

参加者は恵みの雨が降る中、シャベルでササの根が絡む地面を掘り起こし、大きく育てと願いを込めて約50本の苗木を植えた。同校1年の西川司さん（15）は、「地面が硬くて掘るのが大変だった。何十年もたち、立派な森に育ったところに見戻って来たい」と未来の森に思いをはせた。